

# 化学特許のサポート要件：広い権利を確保するための論理構築ガイド

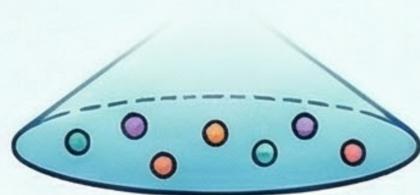
化学・バイオ分野は予測不能性が高く、実施例不足が課題。データ不足を論理で補い、強い特許を作るための実務指針。

## 課題解決を導く「2つの判断ロジック」

### 演繹的ロジック（トップダウン証明）



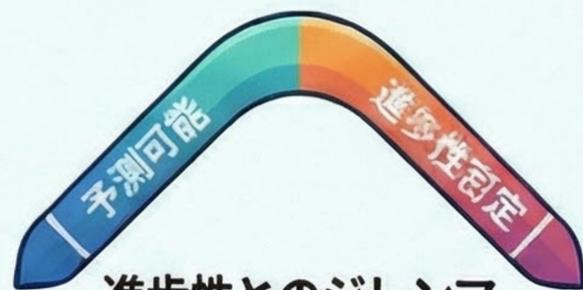
普遍的ルール・機序  
(メカニズム)



全域の効果

作用機序を言語化し、普遍的ルールから  
全域の効果を論理的に導く。

適用場面：作用機序が明確な場合  
必要な実施例の傾向：少数（特定条件のみでも可）



進歩性とのジレンマ  
(ブーメラン効果)

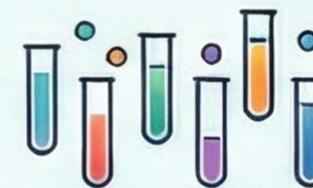
「予測可能」と主張しすぎると進歩性が否  
定されるため、次元を分けた主張が必要。

### 帰納的ロジック（ボトムアップ証明）



共通の法則性・一般化

適用場面：機序不明  
(ブラックボックス)  
必要な実施例の傾向：  
多数（上限・下限・中央値等）

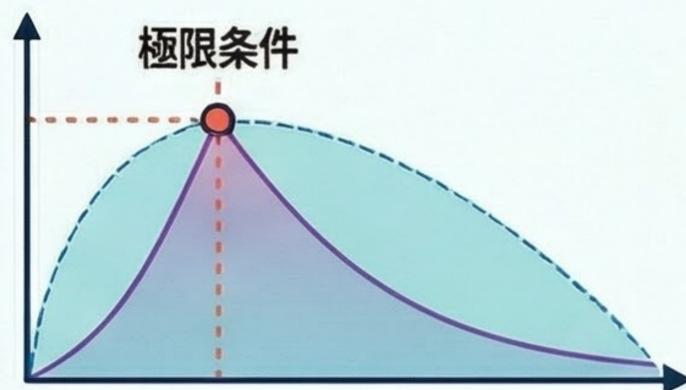


多数のデータ  
(上限・下限・中央値等)

機序不明な場合、多数のデータから共通の  
法則性を見出し、一般化して証明する。

## 実務で勝つための高度なドラフティング戦略

### 「最も不利な1点」の立証



課題解決が最も困難な極限条件で効果を示し、  
演繹的に全域をカバーする。

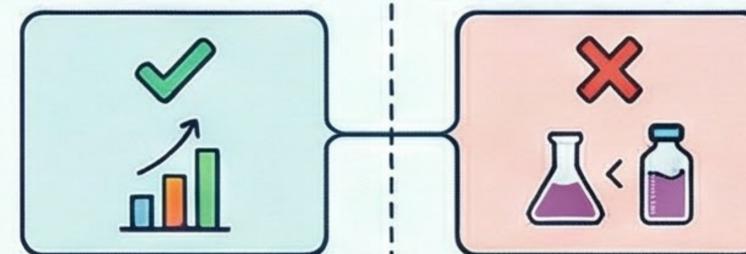
### メカニズムの「仮説」を言語化



厳密な証明は不要。当業者が納得できる  
「推察される機序」の記載が盾になる。

### 境界値の比較例と「弊害」の明記

数値範囲内（成功）      数値範囲外（弊害）



技術的弊害

数値範囲外で生じる技術的弊害を具体的に示し、  
数値限定の必然性を立証する。